



豊能医療圏

がん医療ネットワーク協議会

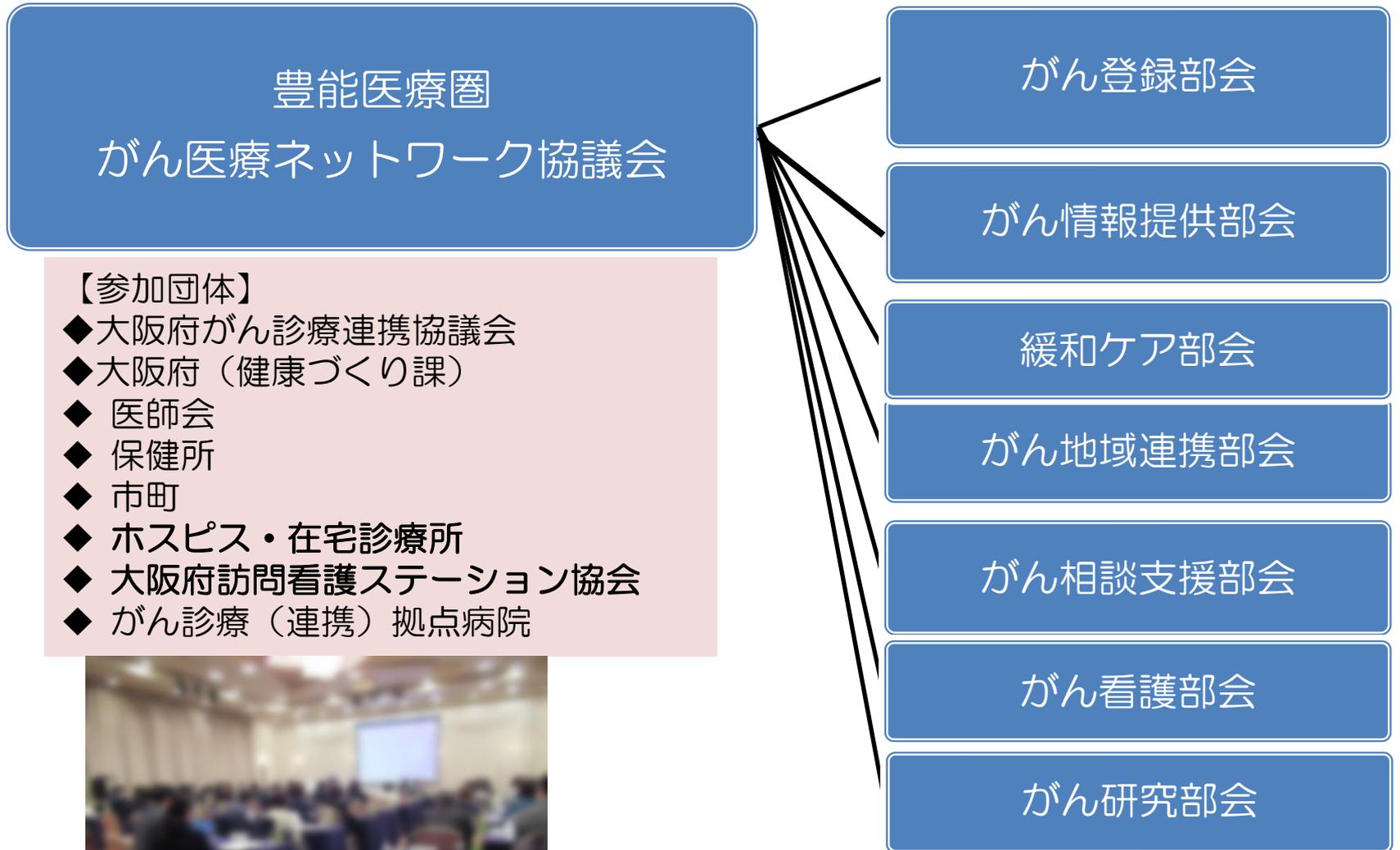
活動報告

〔令和7年（2025年）3月14日〕

市立豊中病院

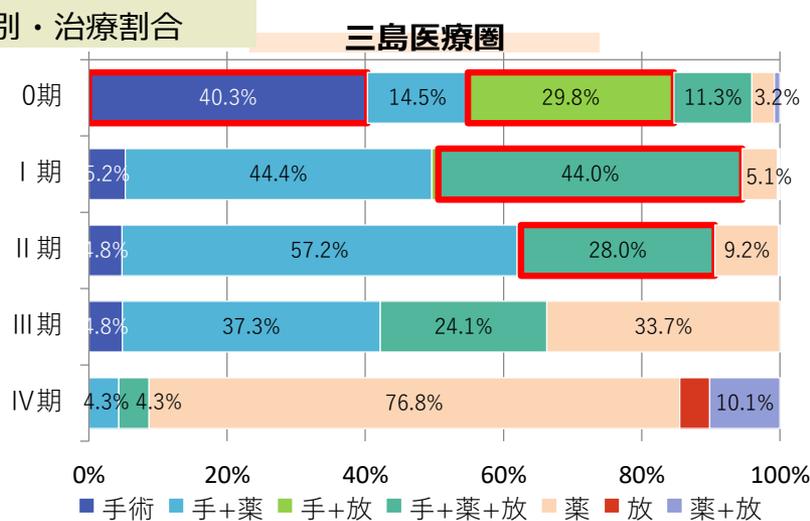
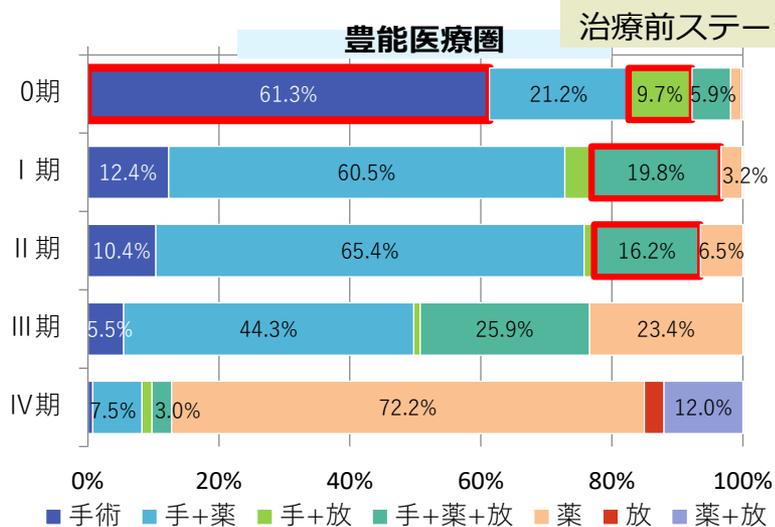
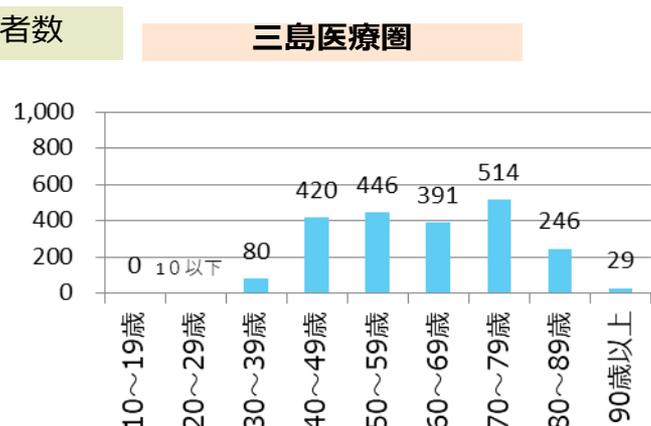
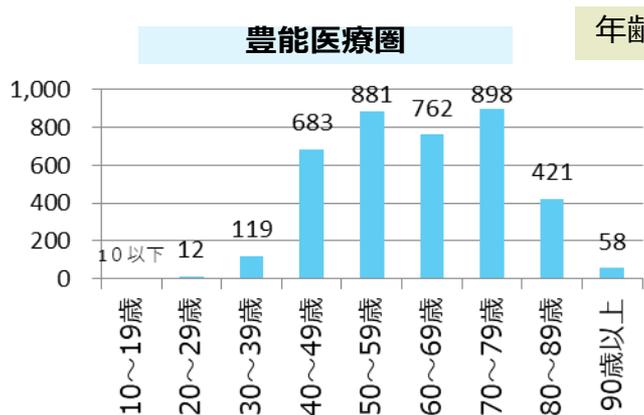
大阪大学医学部附属病院

組織図



がん登録部会

豊能医療圏がん登録部会では、2021年～2023年の3年分の院内がん登録データから、乳癌データを利用して豊能医療圏と三島医療圏における現状について比較、分析を行った。



がん情報提供部会

1. がん教育の推進

- **児童・生徒向けがん教育出前講座**に継続的に取り組み、小・中学校に講師派遣を行った。

2. がん医療公開講座の実施の方向性について検討

- 公開講座の開催方法について
 - 講演テーマ：乳がん
 - 講師：乳がん経験者
 - パネルディスカッション：豊能医療圏の現状について
意見交換



緩和ケア部会

1) 地域連携リレーシートの改訂と地域への普及

現行リレーシートの活用状況を評価し、新リレーシートの内容検討を行った→R6年度に改定版の決定

2) 地域連携カンファレンス（マッチング）

部会参加施設間でカンファレンス希望施設を聴取しマッチング。共通テーマについても議論し意見を部会でまとめて共有する。（R6年度テーマ：ACPを地域間でつなげる方法）

3) 地域統一の専門的緩和ケア一覧の作成

神経ブロック、緩和的放射線治療などの実施状態、院外施設からの受入可否などを部会でまとめて公表。各施設へ作成依頼（統一様式）し、部会で集約、部会参加施設の医療者間でのみ共有する方針。

4) 緩和ケア認定看護師のB課程認定看護師教育課程教育機関の設立を要望

医療の質の維持と次世代の育成のため、大阪府に緩和ケア認定看護師のB課程認定看護師教育課程教育機関の創設を強く要望する

緩和ケア部会

4. 緩和ケア関連の認定・専門看護師充足のための調査と要望

- 地域全体でがん患者に質の良い緩和ケアを提供するためには、十分な知識と技術を持った医療者の充足が不可欠である。特に認定・専門看護師は医療チームの中心となり重要である。
- 各施設は次世代の後継者不足に悩まされている。研修施設は遠方で募集人員も少なく、研修期間も長いため次世代の育成に難渋している。
- 当医療圏では認定・専門看護師の人数自体の減少はないが、年齢も高くなり管理職業業務など臨床業務以外も多くなり緩和ケアに従事する時間は充分ではないと感じている
- 医療の質の維持と次世代の育成のため、大阪府に緩和ケア認定看護師のB課程認定看護師教育課程教育機関の創設を強く要望します



がん地域連携部会

1. がん遺伝子パネル検査の各施設内での認知度向上

大阪府地域連携強化事業補助金を活用し「がん遺伝子パネル検査」周知ポスターとチラシを作成。→豊能医療圏の7病院に配付

あなたに**新たな治療選択肢**が見つかるかもしれません

がん遺伝子パネル検査を知っていますか？

がんは遺伝子の変異で起こる病気です

がん遺伝子パネル検査は、がんの特徴に合わせた治療法を見つけるための検査です。日本では**保険が適用**されている検査です。

ただし、保険診療として実施できるのは**1回のみ**で、対応可能な病院*と連携して実施しています。また、**検査のタイミングが重要**であり、病状や条件により適応が異なる場合があります。

詳しくは**主治医にご相談**ください。

遺伝子の変化に対応した薬剤が選択できるかどうかを検査します

※豊能医療圏（豊中市、池田市、吹田市、箕面市、豊能町、能勢町）では、大阪大学医学部附属病院と市立豊中病院で実施しています。

お問い合わせ・相談窓口

豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会

2. AYA患者の存在を、各病院で少なくとも把握できるようにする

- AYA患者の存在を把握する取り組みについて、各病院ごとに状況に応じた取り組みの検討を開始

がん相談支援部会

2023年度 がん相談支援センターを案内できる体制の整備

がん相談支援センターに関する案内

デジタルサイネージによる案内の導入

カードサイズの情報提供（各部署への設置が容易 新たに4施設で導入・予定）

就労両立支援指導料の算定件数の増加

療養・就労両立支援指導料の算定件数 昨年度は2施設4件のみ

相談件数はそれなりにあるが、なかなか算定には至らず 次年度に確認

対応困難な事例の検討（特に）お金にまつわる困難事例 情報交換

身寄りのない症例への対応

外国籍の患者への対応（保険面 言語面）

生活困窮の患者

高額療養費の手続き（特に世帯合算）

障害年金への対応

次年度の予定としては、

対応困難な事例の検討を継続して実施

ピアサポート



がん看護部会

ELNEC-J研修：豊能医療圏がん医療ネットワーク
協議会主催で開催（1/31、2/8）

開催当番：大阪大学医学部附属病院
修了証授与：37名（申込40名）



2024年度
第1回 豊能医療圏がんネットワーク協議会 がん看護部会
**ELNEC-Jコアカリキュラム
看護師教育プログラム**

日時：2025年1月31日(金)、2月8日(土)
9:00~17:00
場所：大阪大学医学部附属病院
オンコロジーセンター5階がんセンターボードホール
参加費：無料

内容
本研修は米国で開発されたエンド・オブ・ライフ・ケアの包括的カリキュラムです。質の高いエンド・オブ・ライフケアを提供するために必要な基本的知識・技術・態度を学び、看護実践につなげることを目指しています。

1日目	2日目
1: EOLケアにおける看護	6: コミュニケーション
2: 痛みマネジメント	7: 喪失・悲嘆・死別
3: 症状マネジメント	8: 臨死期のケア
4: EOLケアにおける倫理的課題	9: 高齢者のEOLケア
5: EOLケアにおける文化への配慮	10: 質の高いEOLケアの達成

申し込みについて
対象：①~④を満たす看護師
①豊能二次医療圏内のがん診療拠点病院に所属
②卒後3年以上
③看護協会リーダーⅡ以上
④2日間の研修に全て参加できる
申込方法：右のQRコードよりお申し込みください
募集人数：40名(定員を超えた場合は抽選となります)
申込締切：2024年11月15日

連絡先：大阪大学医学部附属病院医事課医事係 ☎06-6879-5206

看護師研修：がん看護に携わる看護師のための自己研鑽研修～新たな発見を知に～
Web開催 事例検討 2回/年度開催

オンラインセミナー 第1回 豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会
がん看護部会 事例検討会

がん看護に携わる看護師のための
自己研鑽研修～新たな発見を知に～

豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会がん看護部会では、看護師間の協力・連携の強化をふまへ、がん看護の質向上に努めてまいりたいと考えております。日々、臨床で悩んでいることをこの機会に共有し、一緒に考えて参りましょう！

日時 10月4日（金）18:00~19:30

定員 WEB 20名（先着順）
*応募締切：9/2（月）17時まで

参加費 無料

内容 治療継続に悩む患者・家族の事例
についてグループディスカッション

参加方法 右のQRコードより
各自でお申し込みください

200Mウェブナーのため、前日までにセミナーへの参加URLを送付致します。
参加申し込みの用に使用したメールアドレスで、200Mに参加いただくよう
お願い致します。

主催 豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会 がん看護部会
問い合わせ先 大阪府済生会白河野郎 がん診療連携推進 担当（これぞわ）
06-9302-1521（代）

オンラインセミナー 第2回 豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会
がん看護部会 事例検討会

がん看護に携わる看護師のための
自己研鑽研修～新たな発見を知に～

豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会がん看護部会では、看護師間の協力・連携の強化をふまへ、がん看護の質向上に努めてまいりたいと考えております。日々、臨床で悩んでいることをこの機会に共有し、一緒に考えて参りましょう！

日時 2月28日（金）18:00~19:30

定員 WEB 20名（先着順）
*応募締切：2/10（月）17時まで

参加費 無料

内容 緩和ケア中心の治療への移行を受け入れ
られない化学療法中の患者の支援
グループディスカッション

参加方法 右のQRコードより
各自でお申し込みください

200Mウェブナーのため、前日までにセミナーへの参加URLを送付致します。
参加申し込みの用に使用したメールアドレスで、200Mに参加いただくよう
お願い致します。

主催 豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会 がん看護部会
問い合わせ先 大阪府済生会千早病院 がん総合診療センター 課上（いわかみ）
06-6871-0121（代）

がん研究部会（阪大病院単独）

(1) 小児がん対策

- 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

(2) 造血幹細胞移植の推進

(3) がん研究の推進

- 多施設臨床研究の推進
- 臨床研究中核病院
- がんゲノム医療中核拠点病院

(4) 先進医療の推進

- テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫（先進医療B）
- 術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（先進医療B）
- 術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除可能な膵臓がん（70歳以上80歳未満の患者に係るものに限る。）（先進医療B）

(5) 人材育成

- がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（大学院）

(1)小児がん対策

がん研究部会

● 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

大阪大学医学部附属病院は、厚労省認定小児がん連携病院、大阪認定府小児がん拠点病院である。小児がん拠点病院や大阪府内の小児がん診療施設と連携し、特に豊能・北摂地域の小児がん患者の質の高い診断・診療に取り組んでいる。

難治性血液悪性腫瘍、骨軟部腫瘍、脳腫瘍、網膜芽細胞腫および肝移植の必要な肝芽腫などについては近隣はもちろん、大阪府内から患者が集積しており、小児科、小児外科、眼科、整形外科、脳神経外科などと連携して治療にあたっている。

造血細胞移植も積極的に施行しており、血縁、非血縁（骨髄バンクなど）、臍帯血のすべてに対応している。また、2020年からはキメラ抗原受容体（CAR）-T抗原療法認定施設として、難治性白血病の治療に取り組んでいる。

さらに、AYA世代のがんに対しても積極的に加療を行っている。

妊孕性温存については、生殖医療センターと連携し、事前にきめこまかな面談を施行のうえ、卵巣凍結をはじめ高度な医療提供を行っている。

小児科では、2005年から治療後の長期フォローアップ外来を設置している。一生を通じて質の高い生活を送ることができるように多診療科による医師、看護師（研修会受講済）、臨床心理士、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種による支援を行っている。同時に移行期医療にも力を入れていく予定である。

がん研究部会

(2)造血幹細胞移植の推進

● 造血幹細胞移植の現状

同種造血幹細胞移植の件数は年間24件（2024年）である。移植の幹細胞ソースとしては血縁（骨髄、末梢血幹細胞）、骨髄バンク（骨髄、末梢血幹細胞）、臍帯血のすべてに対応しており、去年は末梢血幹細胞を用いた移植が3/4となっていた。また造血器腫瘍に対する免疫細胞治療としてCAR-T療法を2020年より開始し、2024年は37件施行している。

(3) がん研究の推進

● 多施設臨床研究の推進（特定非営利活動法人SCCRE（エスキュール））

がん臨床研究を実施する7つの研究会（消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等）を支援している。

● 臨床研究中核病院

平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けた。未来医療開発部の支援の下、がん薬物療法の治験治療等、質の高い臨床研究を推進している。



がん研究部会

● がんゲノム医療中核拠点病院

・「がんゲノム医療を総括する部門の設置」として、がんゲノム医療センターを設置し、平成30年2月にがんゲノム医療中核拠点病院の指定を厚生労働省より受け、令和5年3月に引き続き指定を受けた。（指定期間：令和9年3月31日まで）

・令和6年5月時点で、がんゲノム医療拠点病院（全国に32病院、うち大阪府下2病院）、及びがんゲノム医療連携病院（大阪府下5病院）と協力して、がんゲノム医療の社会実装を推進している。

（協力している大阪府下7病院：【拠点】大阪国際がんセンター、近畿大学病院【連携】大阪公立大学医学部附属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪労災病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院）

・平成30年10月より先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」を実施した。（199例登録）

・令和元年9月中旬より保険診療下でのがん遺伝子パネル検査の受付を開始し、令和6年5月現在、当院で行っている保険診療のがん遺伝子パネル検査は以下の5種類である。

OncoGuide™ □ NCCオンコパネル システム、FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル、FoundationOne Liquid CDx がんゲノムプロファイル、Guardant360 CDx がん遺伝子パネル、GenMineTOPがんゲノムプロファイリングシステム

（令和元年:96件、令和2年:224件、令和3年:255件、令和4年:259件、令和5年：251件、令和6年：253件）

がん研究部会

● がんゲノム医療中核拠点病院

・令和元年10月から、国立がん研究センター中央病院が調整事務局となり実施する「遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療に関する患者申出療養（受け皿試験）」が特定臨床研究として開始された。当院も共同医療機関として実施している。

・令和4年9月より、AMED全ゲノム研究（患者還元班）に参加し、難治がん・希少がんに対する全ゲノム解析研究を実施している。（令和4年度:100例登録、エキスパートパネル開催95例、令和5年度:97例登録、エキスパートパネル開催25例、令和6年度:140例登録予定、解析中）



がん研究部会

(4)先進医療の推進

●以下の先進医療を現在実施中である（R7.1.1）

1. テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫（先進医療B）

2. 術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（先進医療B）

3. 術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブ-パクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除可能な膵臓がん（七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。）（先進医療B）

がん研究部会

(5) 人材育成

- **がんプロフェッショナル養成基盤推進プログラム（大学院）**

110名（2024年度）

（薬物療法、放射線治療、外科治療、緩和医療、医学物理、がん病理、細胞診、がん看護、小児がん、ゲノム医療、創薬など）

